

(a) 見掛比抵抗断面図

① B0断面(図50)

調査地を南西から北東に縦断する断面である。測線全体にわたって、 $20\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗が広く分布するが、断面南西部のB0-0～B0-40付近や北東部のB0-230～B0-290付近には $10\Omega\text{m}$ 以下の大きな見掛比抵抗異常が認められる。断面中央部のB0-100～250付近の最深部に相当する $n=5$ では、 $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常が薄く広がっている。

セレスタイト変質のあるB0-100～120付近、ブキル鉾山採掘跡周辺のB0-150及びその北東のB0-180～190付近の浅部には 20mV/V 以上の高分極率異常があり、鉾化の範囲を限定していると考えられる。

② B1断面(図51)

調査地南西部を南南東から北北西に横断する断面である。中央部のB1-85から南南東に $20\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗が広く分布し、B1-65付近を中心に低見掛比抵抗異常を示すパターンが現れている。北北西端の浅部にだけ $200\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常がある。また、B1-55付近の深部に 10mV/V 程度の極弱い測定分極率異常がある以外に分極率異常は認められない。

③ B2断面(図52)

B1断面の500m北東を南南東から北北西に横断する断面である。中央部のB2-30～70付近を $20\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗が広い範囲を占めており、特に、B2-50～60の深部には $10\Omega\text{m}$ 以下の大きな低見掛比抵抗異常がある。本断面には有意な分極率異常は認められない。

④ B3断面(図53)

B2断面の500m北東を南南東から北北西に横断する断面である。断面全体にわたって $20\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗が広く分布し、中央部のB3-30～70付近の深部には、 $10\Omega\text{m}$ 以下の大きな低見掛比抵抗異常がある。断面北北西部では、北北西端に向かって見掛比抵抗が高くなる傾向がある。

三畳系と白亜系の接触部に相当する、B3-70～B0-100付近には 10mV/V 程度の分極率異常がある。特に、B3-60の深部には 30mV/V 異常の分極率異常がある。

⑤ B4断面(図54)

調査地中央部のブキル鉾山採掘跡を通過して南南東から北北西に横断する断面である。B3断面と同様に、断面全体にわたって $20\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗が広く分布し、中央部のB4-20～70付近には $10\Omega\text{m}$ 以下の大きな低見掛比抵抗異常がある。

ブキル鉾山採掘跡のあるB4-60～B0-150付近には、 10mV/V 以上の典型的なパターンを示す分極率異常があり、その中心部には 30mV/V 以上の特に高い異常がある。

⑥ B5断面(図55)

B4断面の北東500mを南東から北西に横断する断面である。断面中央のB0-200付近を境に南東側では $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗が広く分布し、特に、断面中央部には $5\Omega\text{m}$ 以下の大きな低見掛比抵抗異常がある。

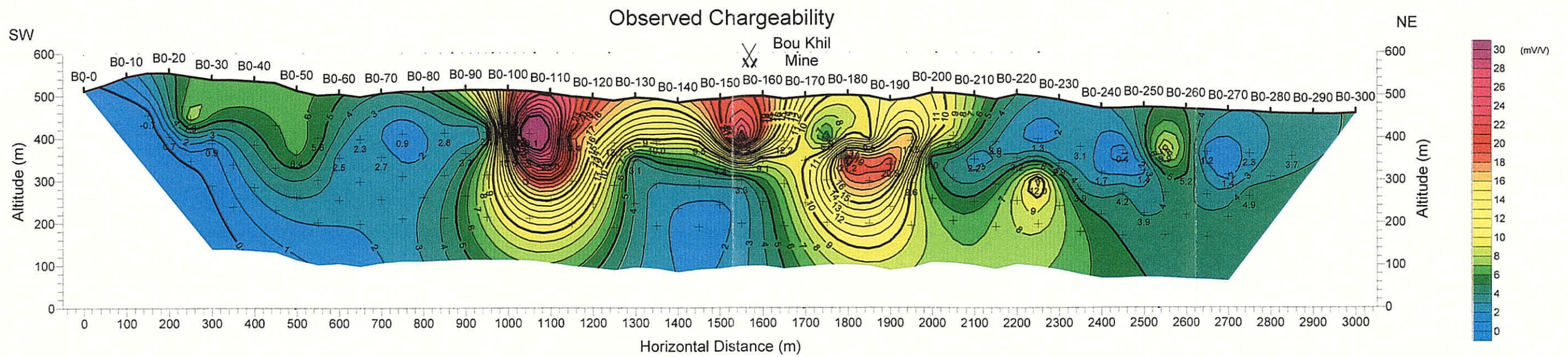
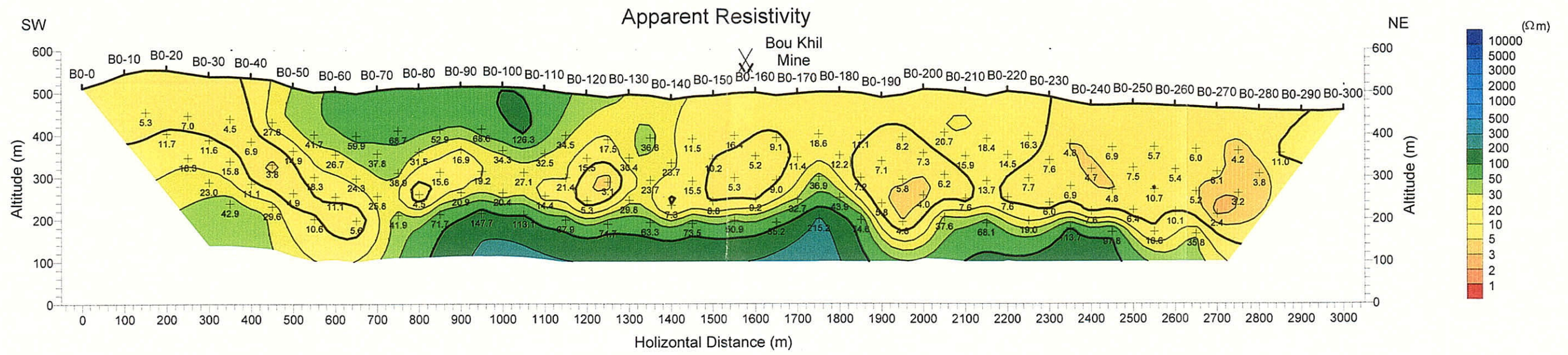


図 50 見掛比抵抗・分極率断面図(B0 測線)

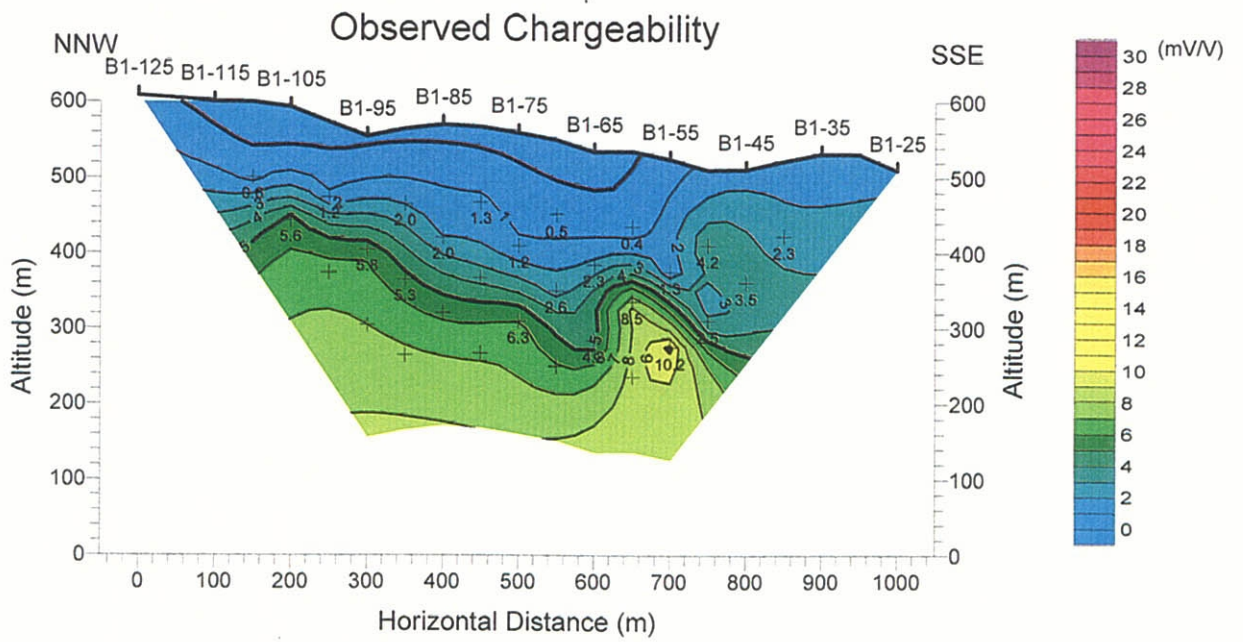
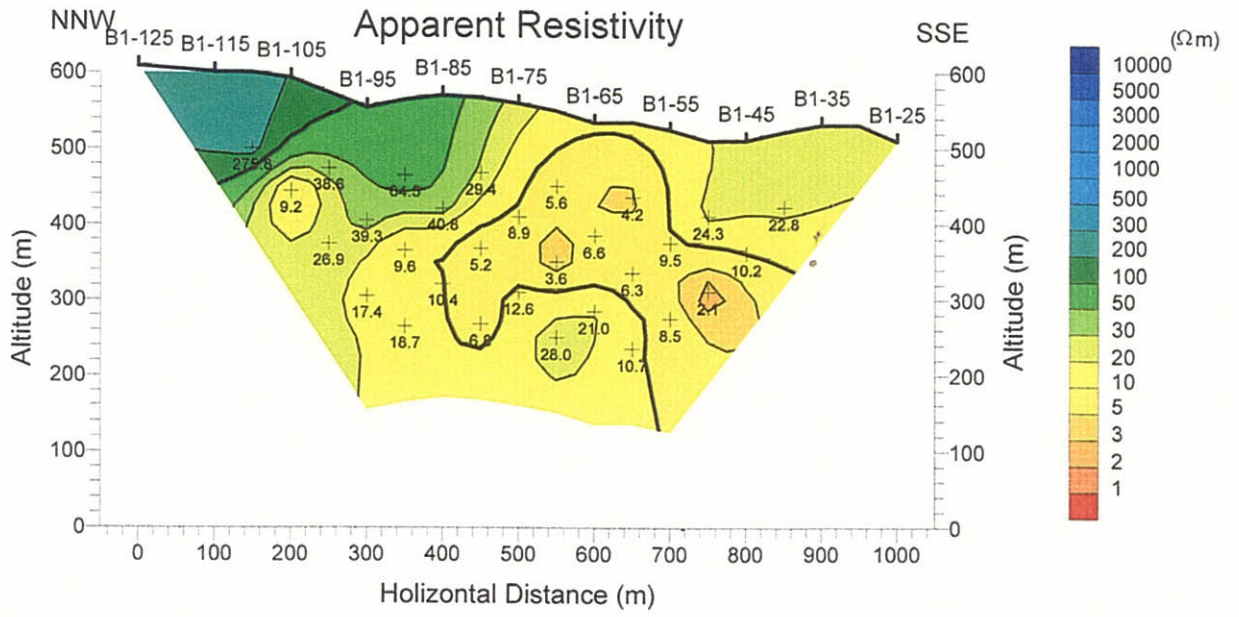


図 51 見掛比抵抗・分極率断面図(B1 測線)

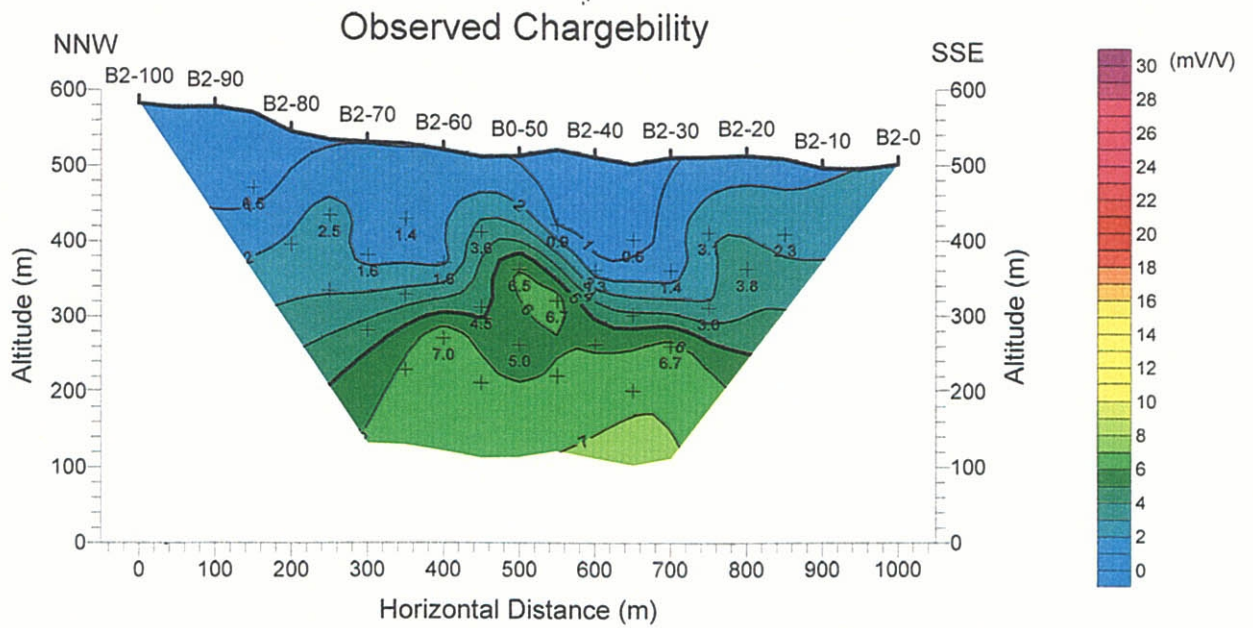
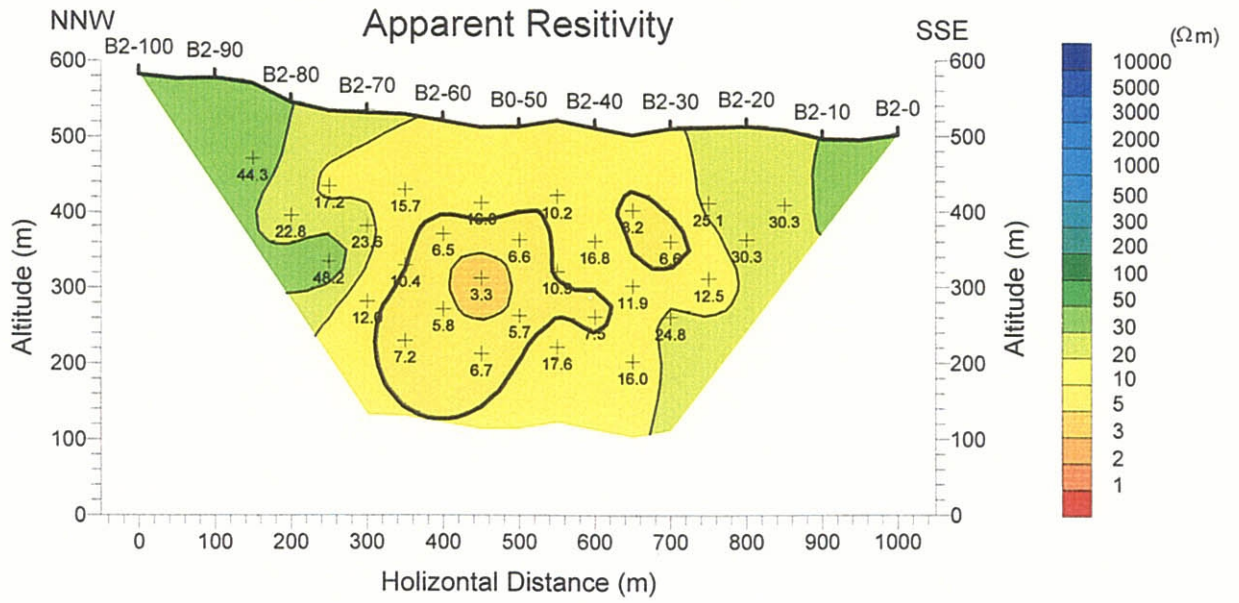


図 52 見掛比抵抗・分極率断面図(B2 測線)

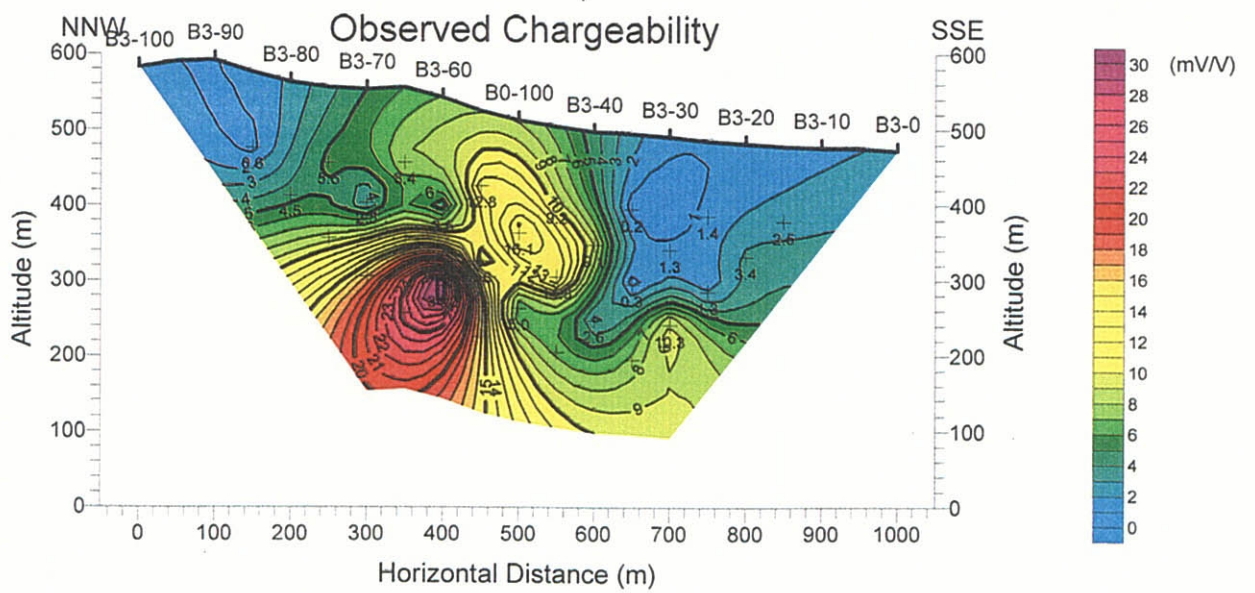
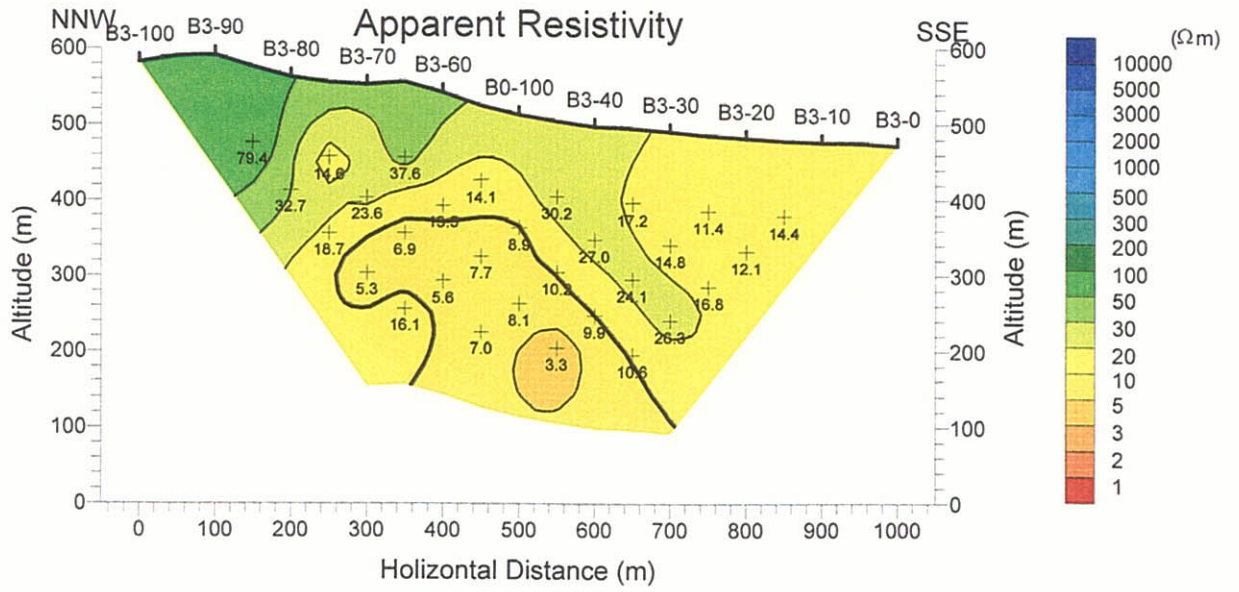


図 53 見掛比抵抗・分極率断面図(B3 測線)

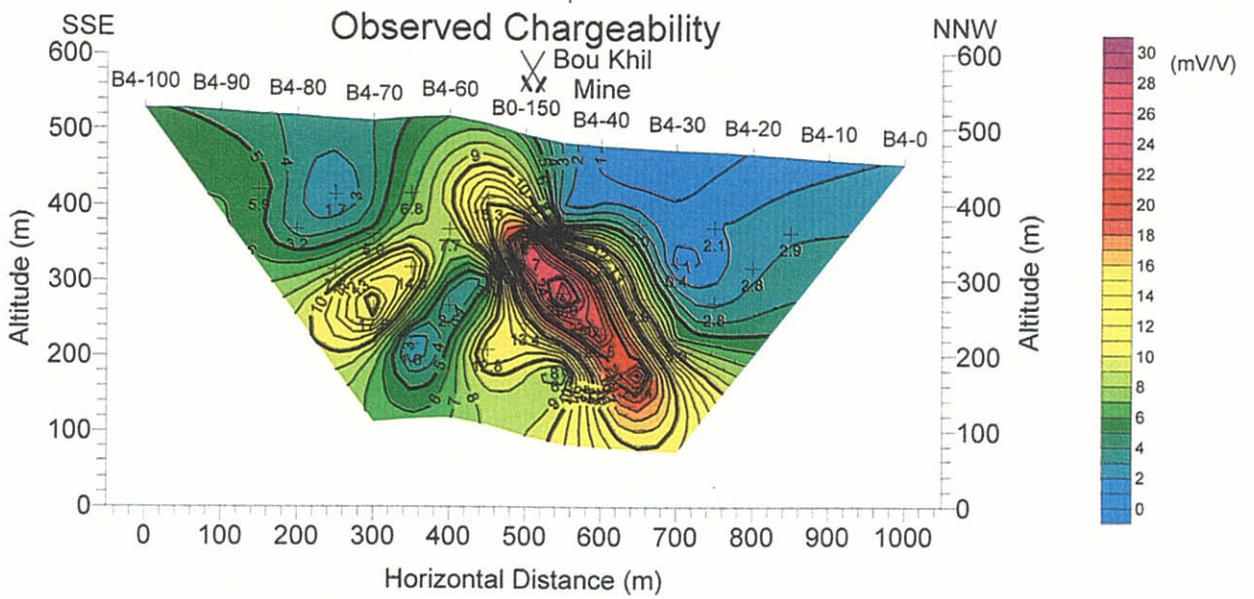
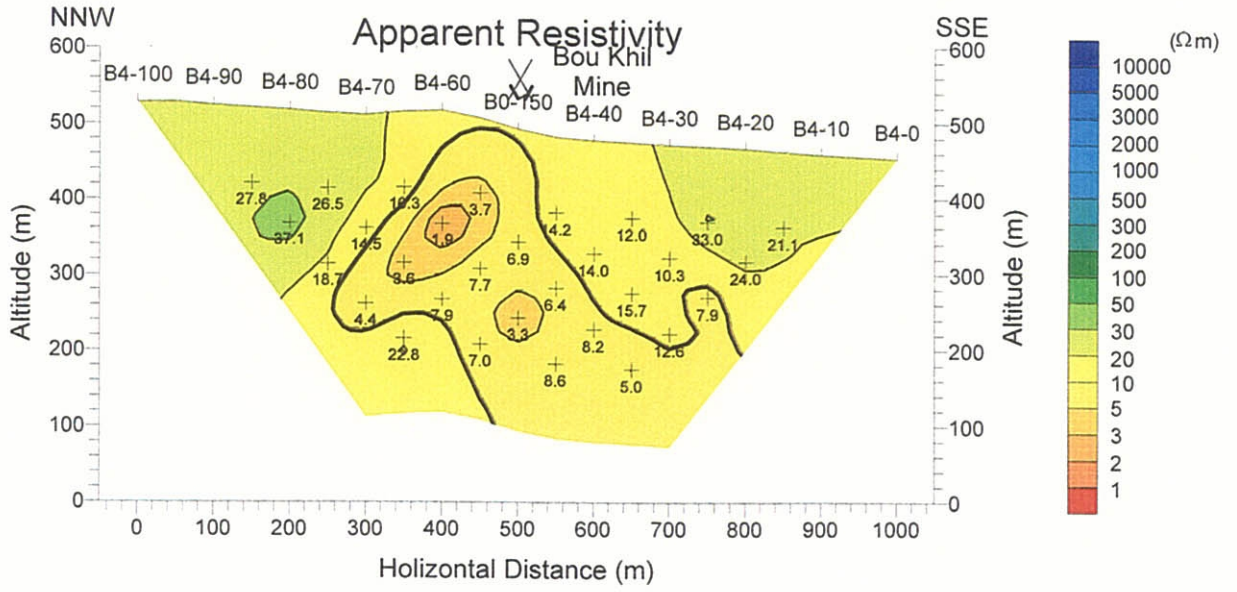


图 54 見掛比抵抗・分極率断面図(B4 測線)

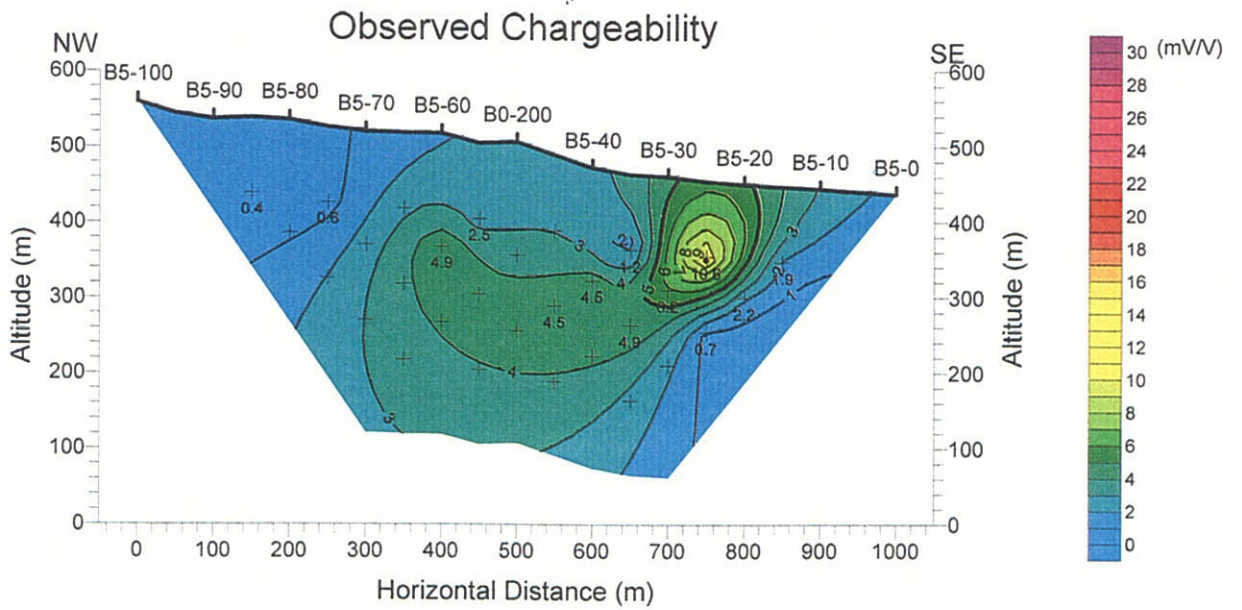
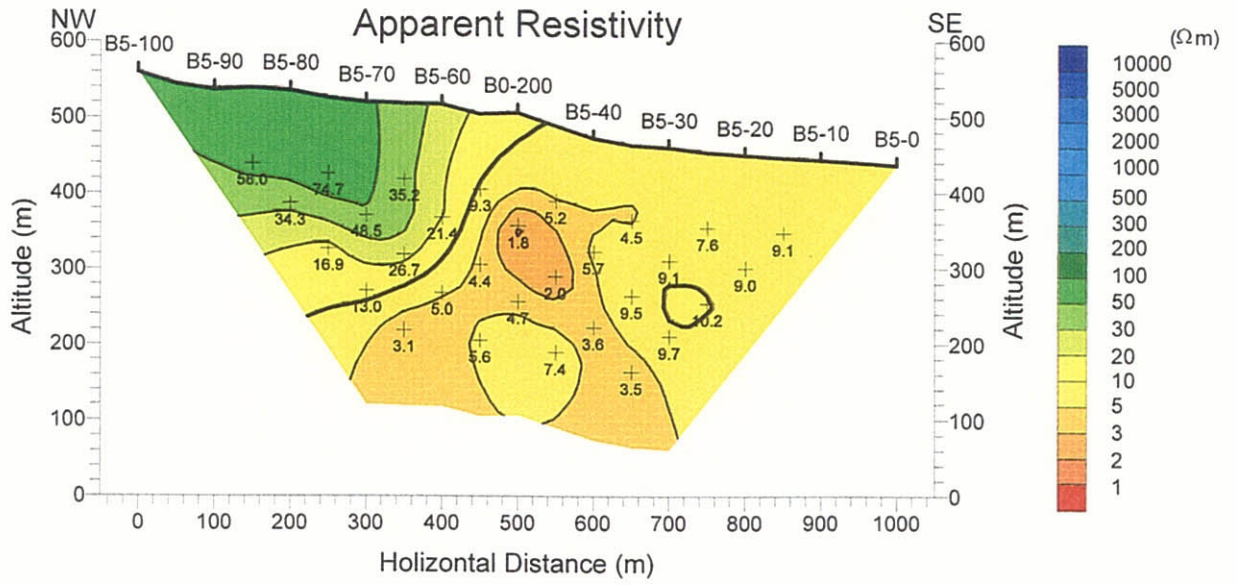


図 55 見掛比抵抗・分極率断面図(B5 測線)

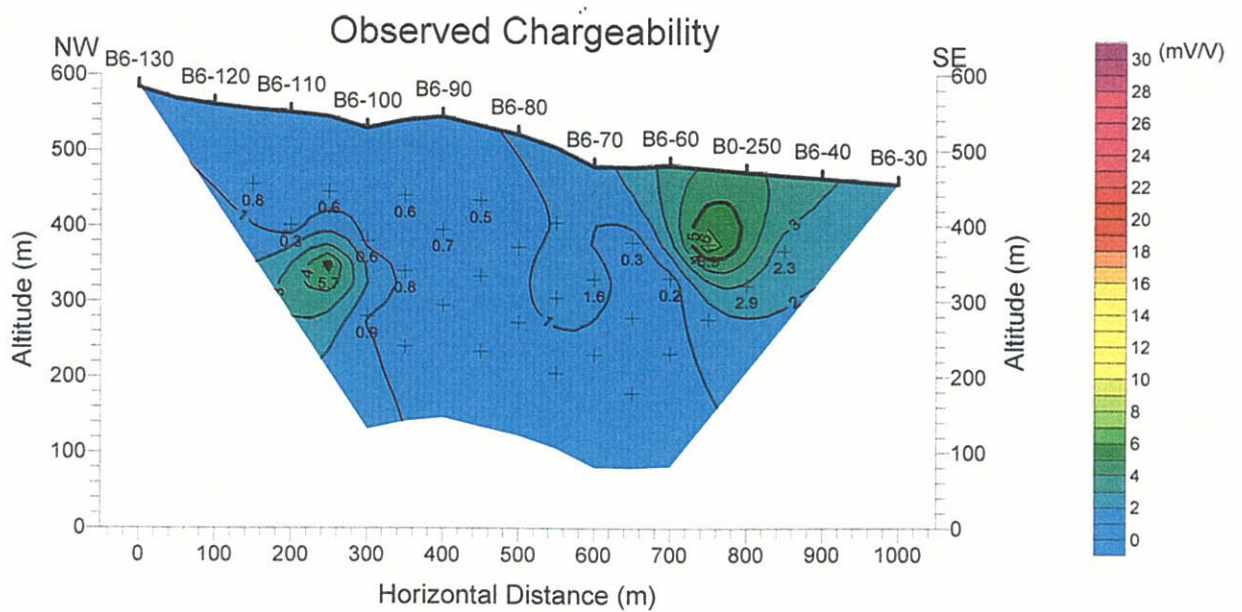
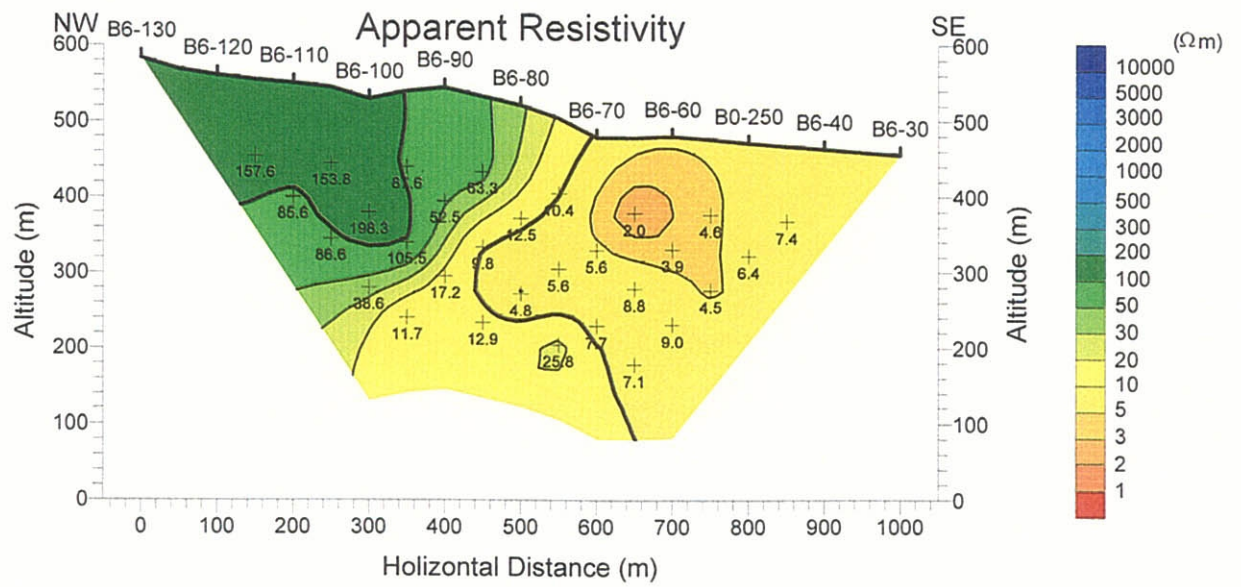


図 56 見掛比抵抗・分極率断面図(B6 測線)